

大後栄治監督の話 グラウンドが使えない状況で学生たちには苦勞をさせたが、何とかやりくりしてきた。シード権の希望が持てるところで4区まで我慢していくしかない。自分たちでミスをしたことが前提になる。



大後 栄治 監督

安藤駿主将の話 このチームは個性が強いが、夏合宿後に話し合いを重ねて強い結束力がでてきた。本戦では最低でもシード圏内を目指す。最後までしっかりと自分たちらしい、ミスのない駅伝をしたい。



安藤 駿 ①★4年②秋田工③29分26秒33

神奈川大



10大会連続51回目

| 過去5大会成績 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 |
|---------|------------|-----------|------------|-----------|------------|
| 総合 | 17位 | 13位 | 5位 | 13位 | 16位 |
| 往路 | 14位 | 15位 | 6位 | 15位 | 18位 |
| 復路 | 16位 | 12位 | 7位 | 9位 | 11位 |
| タイム | 11時間18分47秒 | 11時間20分7秒 | 11時間14分59秒 | 11時間17分8秒 | 11時間15分51秒 |

第96回東京箱根間往復大学駅伝競走



3年ぶりのシード権を狙う神奈川大



北崎 拓矢

①3年②大阪・関大北陽③28分57秒30



荻野 大成

①4年②静岡・加藤学園③28分39秒30



川口 慧

①2年②福井・美方③28分48秒33



越川 堅太

①4年②東京実③28分53秒11



西方 大珠

①2年②静岡・浜松商③29分54秒35



古和田 響

①4年②京都・綾部③29分16秒27



香村 大樹

①2年②大阪③29分2秒58



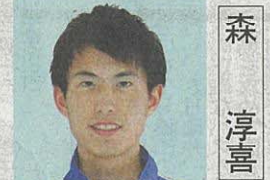
日野 志朗

①4年②長野・佐久長聖③29分53秒79



安田 響

①2年②岐阜・益田清風③29分23秒68



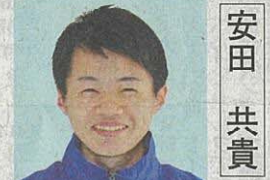
森 淳喜

①4年②広島皆実③29分3秒62



鈴木 玲央

①1年②秋田工③※14分30秒27



安田 共貴

①4年②福岡・大牟田③29分26秒20



古市 祐太

①1年②大阪・関大北陽③30分43秒35



井手 孝一

①3年②佐賀・鳥栖工③29分25秒83

【読み方】①学年(★は主将)②出身高校③1万円のタイム(※は5000円)

チーム紹介は今回で終了します



小笠原 隆士

①3年②愛媛・松山商③28分59秒71

気負いなく本能のまま

「往路は越川の出来で決まる」。3大会ぶりのシード権を狙う大後監督がチームの命運を託して送り出すのが、金沢出身の4年生ランナーだ。

自身最後の箱根駅伝は過去2度走り、勝手知ったる3区でエントリー。「目立ちたがり屋」を自認する最上級生は「区間賞以外は意味がない」と自らの走りでは低迷する神大を押し上げる。

1年時より箱根のメンバー入りし、全日本大学駅伝では一昨年に5区区間賞の快走で優勝に貢献。一躍脚光を浴びたが、最終学年の今季は夏合宿中に左の足底を負傷するアクシデントに見舞われた。

1カ月ほど練習から遠ざかり、調整不足で迎えた10月の予選会は個人71位に終わった。ただ、けがの癒えた現在は調整が順調に進み、1カ月前の記録会では28分台をマーク。昨年は一度に20キロほど増やした練習量を30キロまで増やし、大後監督からは「マラソン

の練習をしているんじゃないぞ」と苦しい言葉を浴びた。

卒業後は実業団に進んで競技を続ける予定。学生生活の集大成となるが、余計な気負いは一切ない。「先頭を走っている時が一番気持ちいい」。本能のままに走る。

(木田 亜紀彦)

こしかわ・けんた 180センチ60キロ。金沢中・東京実商・人間科学部4年。

越川 堅太



区間賞を狙う越川

逆境乗り越え復活へ

3年ぶりのシード権だけではなく、総合5位以内を目標に掲げる神奈川大。絶対的エースは不在だが、大後栄治監督(55)は「小さいながらもきらきら輝く粒になりつつある」と個性派ぞろいのチームを磨き上げてきた。

年々高速化が進むレースでは序盤の出遅れが致命傷となるだけに、1区が濃厚な4年荻野に期待がかかる。1万円の自己ベストはチームトップの28分39秒30で、「自分がしっかりといい流れをつくらせて、9人につなげたい」と意気込む。過去2大会は主力選手の直前のけがなどもあって、総合13、16位と低迷。指揮官は「凡事徹底」を掲げ、「準備すべきものを準備すれば勝負できるチャンスは出

てくる」と見ている。

今春から中山キャンパスのグラウンドが改修工事に入り、練習場所を探して県内を転々とする苦勞を味わった。陸上トラックが確保できず、練習メニューの変更を余儀なくされたこともあったが、夏合宿後から4年生を中心にまとまり、10月の予選会では2位で10大会連続の本戦切符を手に入れた。

逆境を乗り越えて復活の足がかりにできるか。「全員が力を出し切れれば目標の順位に近づける。最後まで団結してやっけていきたい」と主将安藤。地元の大応援を追い風に、プラウドブルーのたすきをつないでいく。

(木田 亜紀彦)